

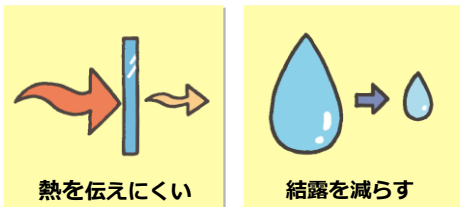
先進的窓リノベ事業



先進的窓リノベ事業は、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、家庭部門の省エネを強力に推進するため、住宅の断熱性の向上や高効率給湯器の導入等の住宅省エネ化を支援する新たに創設された「住宅省エネ2023キャンペーン」の補助事業の1つです。

窓事業の目的

住宅の窓の断熱性能を高めた省エネルギー性能の高い住宅を普及させることで、エネルギー価格高騰への対応や、CO₂排出量削減への貢献を目的とする事業です。



住宅の断熱化による健康への好影響として、健康診断結果の成績向上、睡眠の質向上、子供の喘息防止、入浴事故（ヒートショック）リスクの低減を期待できます。



<https://www.mlit.go.jp/jutaku/kentiku/house/content/001583416.pdf>



開口部の重要性

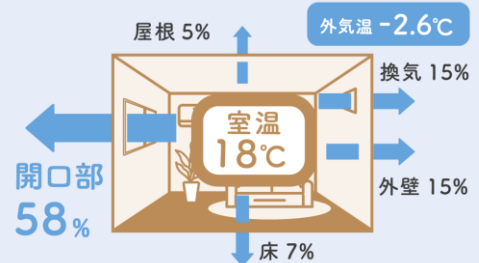
住宅の断熱性能を高めるためには、冬は家の中の暖かい空気や熱を外に逃がさない、夏は外の暑い空気や熱を家の中に入れないことが有効です。

中でも、窓の熱の流入は住宅全体の6~7割に及ぶとされており、大きな割合を占めています。

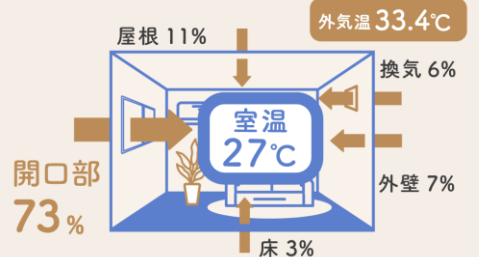
これは日本の住宅の窓の約7割が、熱の流入量が大きい「アルミサッシ+単層(1枚)ガラス」の組み合わせであることが原因とされています。

住宅の窓を高断熱の窓に交換することで、高い省エネ効果が期待できます。

冬の暖房時の熱が開口部から流失する割合
58%



夏の冷房時(昼)に開口部から熱が入る割合
73%



改修前の窓の熱貫流率は

4.0 (W/m²・K) ですが

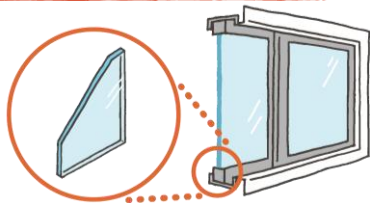
改修後の窓の熱貫流率は

1.9 (W/m²・K)

まで向上します!!

※ 熱貫流率とは、室内側と室外側の温度差を1℃とした時、窓ガラス1m²に対して、1秒間に通過する熱量のことをいいます。この熱貫流率の値が低いほど高い断熱性能を示します。

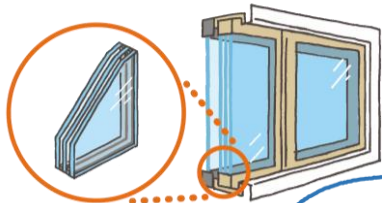
● 改修前の窓 (アルミ+単板)



熱貫流率 **4.0** (W/m²・K)



● 改修後の窓 (樹脂等+複層)



熱貫流率 **1.9** (W/m²・K)

断熱性能UP!

断熱性能
2.1 倍
に向上

Low-E複層ガラスの場合の使い方

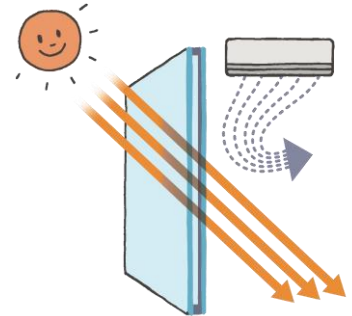
Low-E複層ガラスは二つのタイプを条件に合わせて使い分けることで、更に大きな省エネ効果を発揮できます。

※ Low-E複層ガラスとは、高断熱の複層ガラスにLow-E金属膜をコーティングすることで、より断熱性能を高めたガラスのことです。

リビング

の窓には

日射取得型



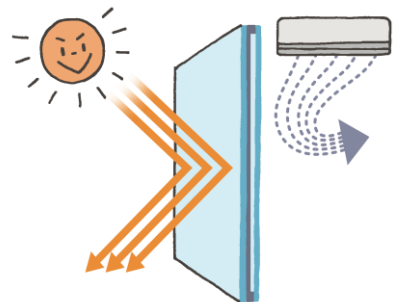
日差しをほどよく取り入れる「日射取得型」は、冬の低い位置の太陽から日差しを取り入れて室内を温めることができます。

窓に合わせて軒やひさしをつけることで、高度の高い夏の昼間の太陽の直射日光を防ぐこともできます。

寝室

の窓には

日射遮蔽型



高度の低い西日は軒やひさしでは遮りにくいので、夏の強い日差しをカットする「日射遮蔽型」のガラスが適しています。

窓の外側で日射を遮るすだれやシェードなどを併用するとより遮熱効果がアップします。

その他の省エネ

窓の高断熱化で省エネ効果高めるとともに、普段の生活の中で、エアコンの使い方を見直しなどを行うと更に省エネ効果が高まります。



室内の冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で室内温度を上げましょう。



重ね着するなどして、無理のない範囲で室内温度を下げましょう。



目詰まりしたフィルターを清掃しましょう。



日中は“すだれ”や“よしず”などで窓からの日差しを和らげましょう。



窓には厚手のカーテンを掛けましょう。

先進的窓リノベ事業専用サイト

<https://window-renovation.env.go.jp/>



株式会社セタニ

TEL 03-3264-3601

(通話料が発生しますのでご注意ください)

受付時間

9:00~17:00